留学 1,200日 (1)

あなたも留学できる

石原 舜三

まえがき

「皆どうしてあんなにすいすいと留学できちゃうのだろう」留学する大切な婚約者を空港に見送った私の友人はつぶやいた．　婚約者と同じ大学で勉強したいという彼女でなくとも　もっと広い違った所で自分の力をためしてみたいと思っている人は多いことと思う．　しかしどうしても自分で留学できる経済力もないし　身元を引き受けてくれる知人もいない．　また他国のことばで新しいことが勉強できるだろうかと一まつの不安を行きたいながらも持っている　そんな人たちのために自分の経験をもとにしてこの稿を書いてみた．　留学関係の情報の入りにくい地方の若い人たちに読んでいただければ私としてはこの上なくうれしい．　私自身自力で留学できるなど思ってもいないけれども　地質調査所にいるお陰でS大学で　Ph. Dをとられたある先輩にはげまされながら　奨学金の申込み方法などこまかいことまで教えていただき　さいわいにもまず渡米することができた．

3年2カ月自分の好きなようにやらせてもらいながら「ずいぶんごゆっくりだったね」の一言で談笑に入られた斎藤地質調査所長や　不在中の私の仕事を分担して受け持ってもらった人たちの留学することへの理解のある地質調査所にいたことを　自分としては本当に幸せだったと思う．　さて　もし留学できるあるいはする場合に理想的なのはどこに行って何を勉強するかがはっきりしていることであろう．　だからと言ってしっかりした目標のない人は留学すべきではないと言うことではない．新卒の人などとくに　地質学の問題点がはっきりつかめずに4年間を過したかも知れない．　私はどうものびる素質ものばし切れないで大学を出る人が案外に多い様な気がする．　それは日本の大学は一般論として教えることに不熱心であり　その上休講が多いからである．　これについては標題を改めて述べたいと思っている．　話を本筋にもどして　進歩と合理性を常に追及する生活態度の人はアメリカの大学は絶好の場であろう．　何をの問題はそこで考えても遅くはない．

ある程度の年配者が留学される場合には　素直に「おめでとう　しっかり勉強して下さい」の声の陰で何かとかすかな雑音の入るのが極東の島国　日本の悲しい現状である．　私などは環境が変れば　日本でできる事以上の成果が上がるかも知れない期待の上に　日本や自分を客観的にみつめ得ること　国際的視野に立つこと　外国語を実地で習うこと　およびその他もろもろの見聞きすることを含めて機会を作ってできるだけ出るべきだと思うのだが　どうだろう．　「やー　アメリカ人は動物ですな　ミュンヘンのビールはうまいですわ　人間ちゅうなあどこでも同じですな　これが私の　数十ヵ国を視察した今回の旅行の3つの結論ですよ」とはローマで会った前首相と同期だったが売物のある日本代表の言であった．“Thank you”にも突差の返答ができない貧弱な語学力をひっさげて　旅の主目的である国際会議にこれから出席されるとも聞いた．　欧米人の愛の表現が寝室からはみ出しているのも他の2点も日本にいたってわかるさと一笑する前に　私などはその人が体得されたことを買いたい方である．　かと言って　この様な最低の日本人には旅先で2度と出会いたくはない．

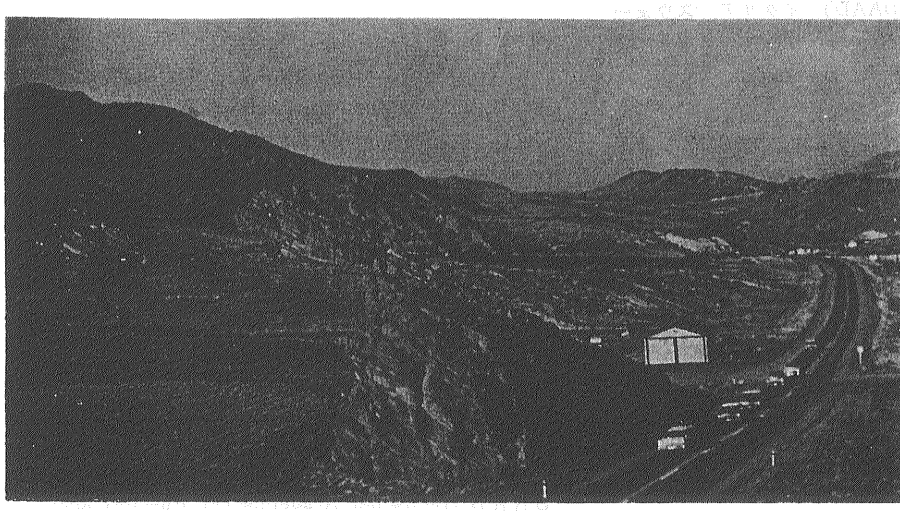
私が外地で会った日本人留学生をみていると　だいたい　次の4つに分けられる．

A　純粋に自費で留学する人
B　外国の知人をスポンサーにその家庭その他から通学する人
C　日本政府あるいは会社などからの奨学金で勉強できる人
D　外国政府または大学などの奨学金で留学する人

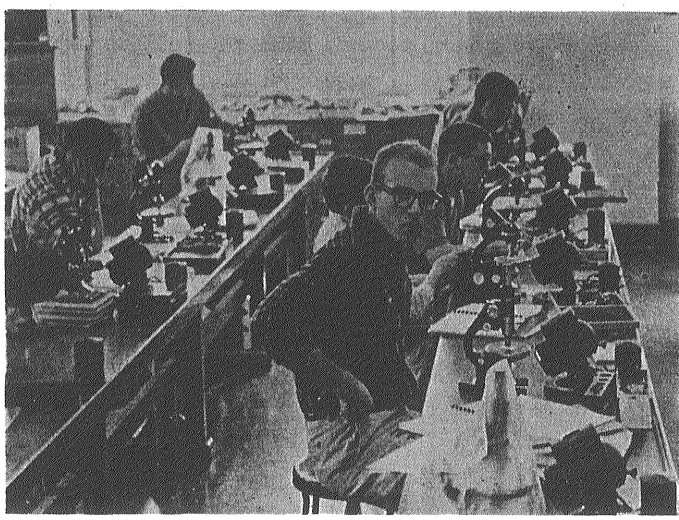
Aに属する人は昨年4月から急増している．　国と勉強する場を自由に選べて私からみるとうらやましい限りっだた．　理想的だと思う．　しかしAやBに入れる人は限られていようし　若い人たちが向学心に燃えるうちに　Cの範中に入れるには日本の奨学金制度は余りに貧弱なのが現状である．　そこで　つても金もないが勉強したいという人には　Dだけが残された道となる．

Dの中で政府支出の奨学金制度のうち最も規模の大きいものは　アメリカのフルブライト奨学金である．　しかし1961年に私が聞いたところでは　理工科専攻の人は民間会社の寄付により各大学自体が高額の奨学金を持っているために　全額支給の奨学金の試験は受けられないということであった．　現在でもこの点は変っていない．したがって地質学専攻生には　その他の国の政府奨学金で支給者数の多いものや　自然科学が優先されるものが有利となってくる．　以上は往復旅費および滞在費持ちの全額支給の場合であって　フルブライトには他に　アメリカでの生活保障のある人に対する旅費支給の奨学金

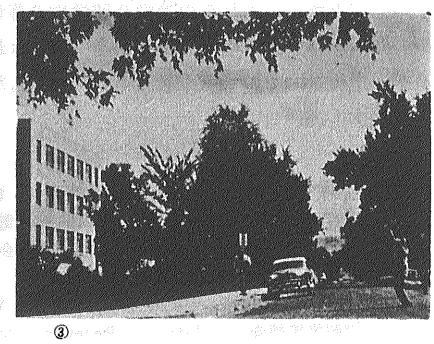
①
アメリカ西部の大学に留学すると　緑の深山に　紺青の湖の夏　Aspen（ポプラの一種）にいろどられる秋の山腹　粉雪をける冬の生活と　大自然を楽しむことができる　エバンス山とエコー湖を望む9月の一日　山頂の白いのは新雪　右側の白はアスペン



②
乾燥しているために　東部と違って露出がよく　野外での地質調査の勉強には最適だ.
Morrison formation のモリスンの近く　左側の山はロッキー山脈の前衛で右側の中・古生層をつきあげている



④　授業はよく準備されていて　必須事項はすべてプリントにして配られる　実験器具のじゅうぶんなことはもちろんである　西部の大学ではアイビーリーグの大学などと違って学生はスポーツシャツで登校し　きゅう屈さはない



③
9月中ごろから　どの大学でも授業が始まり　校庭は活気をおびてくる
コロラド鉱山大学では　新入生は本などの持物を頭の上にして　校庭を走りながら教室を移動するならわしがある

制度がある．　これについては後でのべる．　Dの2番目の方法　大学の奨学金の場合には研究費を豊富に持っていることに　私の留学生活がおもにアメリカであったことと併せて　アメリカの大学に焦点をしぼることになると思う．

外国政府の奨学金制度

この奨学金は往復旅費　留学中の生活費および授業料が支給されるという非常に恵まれたものが多い．　中にはごく少数だがスウェーデンの様に　旅費は半額しか支給しないものもある．　これらは一括されて国の窓口である文部省留学生課で取り扱われているが　次に掲載するように　各国大使館や単独におこなわれているものもある．

文部省調査局留学生課：　オーストラリア　ブラジル　ニュージーランド　オーストリア　ベルギー　**フランス**(一般留学)　**ドイツ**(DAAD)　イタリア　**スウェーデン**　スペイン　スイス　チェコ　インド　イラク　パキスタン　フィリピン　タイ　アラブ連合．

大使館：　デンマーク　**フランス**(技術留学)　**ドイツ**(フンボルト)　イラン　イスラエル(公使館)

その他：　フルブライト委員会：**アメリカ**　日ソ協会：**ソ連**　英国文化振興会：**イギリス**　科学技術庁原子力局：**フランス**(原子力関係)　ブルガリアのソフィア大学：ブルガリア　自然科学研究振興会：**カナダ**　その国の文部省：アフガニスタン　科学技術庁振興局国際協力課：オランダ　このほかに特殊な研究に関するものはその道の機関　たとえば菌なら厚生省と言ったように　窓口が分かれている場合もある．

以上のうち地質専攻の人に重要と思われるものを大学で示してみた．　これらの奨学金留学生の募集については　各大学や大きな商業新聞を通じて発表されている．直接　手紙を出すのも一方法だろう．　おもな機関の所在地を次に掲載しよう．

文部省調査局留学生課：　千代田区　霞ケ関 3—4，電581—4211
日ソ協会友好大学係：　渋谷区　千駄ケ谷 3—11，電401—0878
在日アメリカ合衆国教育委員会(フルブライト委員会)：港区　芝田村町1—3　電501—1331
英国文化振興会：新宿区　左門町 13 鈴木ビル内　電353—6171
カナダ自然科学振興会：Natural Research of Canada, Ottawa, Canada
フランス大使館：港区　麻布富士見町　33，電473—0171
ドイツ大使館：港区　麻布広尾町35　電473—0151

次に各奨学金について説明してみたいが　詳細については上記の機関に問い合わせて欲しい．　募集要項は年によって少しずつ異なるのが常である．

イギリス

British Council Scholarship と言われるもので　資格は満25才～35才(1月1日付)の者で学士取得者または同等の資格のあるもの．　例年9月中旬から10月末までの間に英国文化振興会で準備した申込書と専攻科目に関する短文および2名の推薦書（いずれも英文）を提出して申し込む．　書類選考に通った人は　12月中か上旬の2日間の口頭および筆記試験をうける．　合格者は往復旅費のほか10カ月分の生活費と学費が支給され　7月頃船で旅立つ．　1965—66年度分には約170名が応募し10～20名に支給されるそうである．　試験内容は1964—65年のものが1964年の英語研究の2月号に出ている．ご参考まで．

フランス

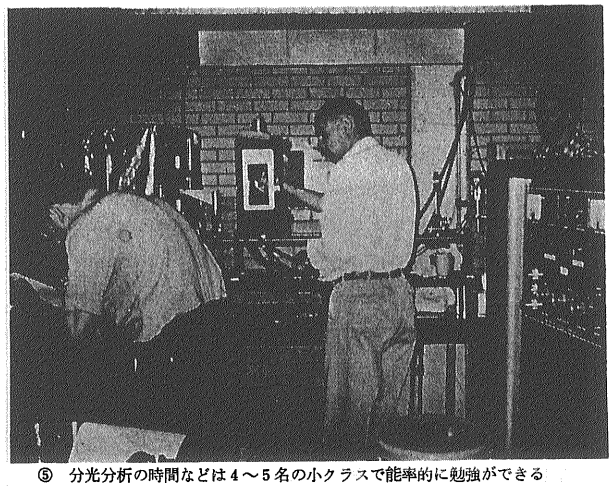
ここは3本立てで技術留学と原子力技術留学を除き若い人向きのフランス政府給費留学 (Bourses d'études du Gouvernement)のみとり上げてみると　資格はイギリスの場合と同じで　ただ年令は33才まで　だいたい2月中のいずれかの日に申込みをしめ切り　試験は中～下旬に繰り返し行なわれる．　1964—65年度の実績は応募者99名に合格者43名　試験の内容は公表されない．

ドイツ

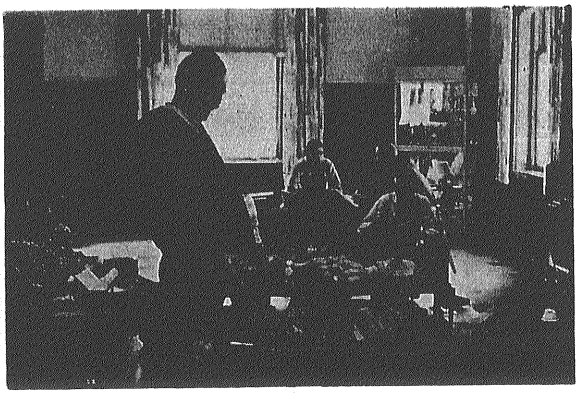
ここでもやはり大学や研究所などですでに技術を持った人(29～38才)を対象にしたフンボルト奨学金(20名募集)と　若い人のためのDAADとに分けられている．DAAD (Deutscher Academischer Austauschdienst)には10月1日付　31才までの人が応募でき　1664—65年度の実績では申込みのしめ切が1月22日　2月上旬に2日間にわたって　筆記および口頭試験が行なわれた．受験者は65名で　31名が採用されたが　今年は21名に減るそうである．

カナダ

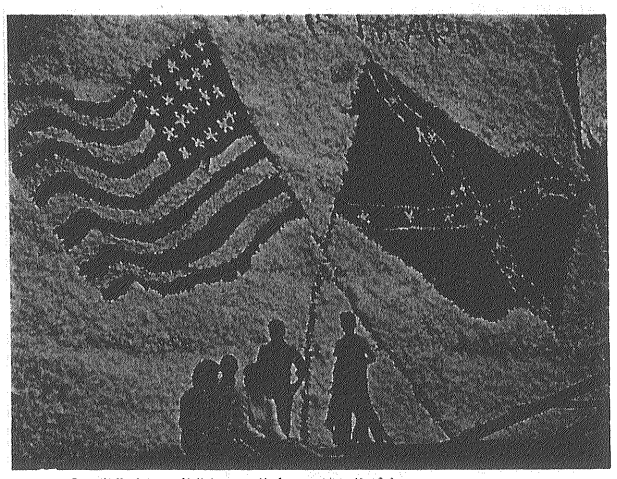
Natural Research Council Scholarship と言われるもので　博士号を持つ35才までの人に限られ　オタワの Natural Research Council に必要書類を送り　書類審査のみで決定される．　しめ切は　1965—66年度の場合は1月15日であった．



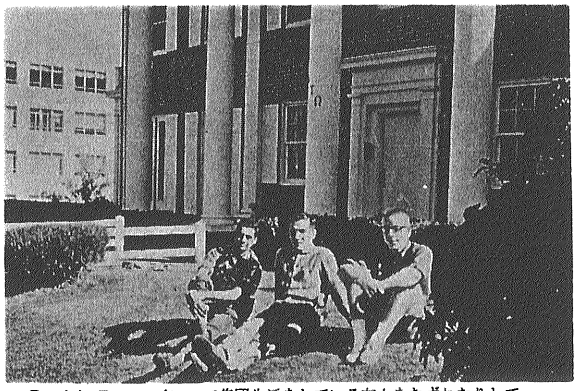
⑤　分光分析の時間などは4～5名の小クラスで能率的に勉強ができる



⑥　授業のすんだ午後の中ごろになる　と疲れ休めに学生たちは学生会館に集まりコーヒーを飲む　立っているのはインドネシアからの学生

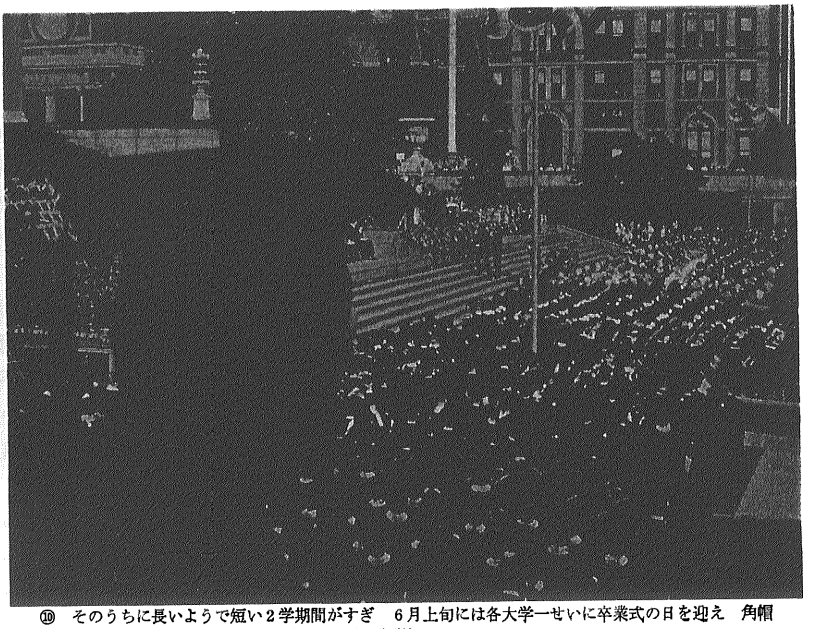


⑧　学期中には学芸祭その他楽しい催し物が多い Home coming day には Fraternity は飾られ　両親や恋人　女友だちを呼んで全館を開放し　一日中遊びまくる　この日はまた近所の子供たちや　町の人々までも参加する



⑦　また Fraternity　で集団生活をしている友人をたずねたりしてくつろいだひとときをすごす
左は2カ月寮で同室だったインドの少年　Soli
中央は筆者　右はコロラドの友人　Chuck

⑨　その時には体育館で前夜祭が開かれるいろいろなだし物のあと　慣例のクィーンが選ばれる　コロラド鉱山大学のような男子がほとんどの大学では　近くの女子大学に候補者をつのる



⑩　そのうちに長いようで短い2学期間がすぎ　6月上旬には各大学一せいに卒業式の日を迎え　角帽をかぶって晴れの式にのぞむ（コロンビア大学）

スウェーデン

自然科学専攻の人に限られ　地質の人には有利だが毎年1名に支給するのみで　また全額支給ではない．英語ができれば　スウェーデン語はできなくてもかまわない．　1964—65年度の場合は5月に申込みをしめ切り引き続いて6月中に試験をし　14名が応募者した．

ソ　連

現在10名の学生を毎年モスクワの友好大学に送っており　詳細は日ソ協会の友好大学係に　現金あるいは切手で120円を添えて申込むと　説明書その他を送ってくれる．　高校卒業の独身者に限られる．

アメリカ

すでに述べたように　私たちには全額支給奨学金をうける資格はなく　旅費のみである．　1961—62年を受けた時には　教授と研究員　および大学院留学生に分けられていた．　前者は博士号あるいは同等以上の学識経験のある人で　月360～700ドルの生活必要経費を保障されている人に資格があり　登録しめ切日が1961年2月28日応募用紙しめ切り日が3月10日　4月11～12日に東京で面接　被推薦者は5月26日の　Orientation　に出席ということになっていた．　後者の場合は35才以下でアメリカの大学院に入学を許可され　学費と全生活費（月約170ドル）の保障のある人に対して　3月31日に登録を4月21日に応募用紙をしめ切り　5月22～24日に面接25日に筆記試験と身体検査をして適格者が選ばれた．Orientation　は26日で　すべては東京で行なわれた．1965—66年度については　2月15日まで必要書類を申し込み者に送っている．　その他の細目は昨年12月12日現在発表されていないが　1961—62年の時より約1カ月ずつ早くなるだろうとのことだ．　1964—65年度の実績では教授と研究員の部門で110名　大学院留学生を102名送っている．　申込み者はそれらの5倍に達したが　アメリカでの生活の保護が不備であったりして　面接では2～2.5倍だったとか．　ではその保障をどうしてとりつけるか　次にそれについて説明しよう．

アメリカの大学の奨学金制度

これには大きく分けて2種類ある．　博士号を持つか同等の資格のある人を対象にしたもの（Post Graduate Fellowship）と　大学院で正規に勉強する人のためのもの（Graduate Scholarship）である．　いずれの場合も各大学に係があり　それは奨学金の種類など　その他のすべての必要事項と共に　各大学で出している要覧に出ている．　要覧はおもな都市にあるアメリカ文化センターの図書室に最新年度のものが保管されている．

大学院留奨学金はその大学で正規の学生になることを前提としたもので　自分のとりたい講義を数課目とりあとは実験で過すようなことはできない．　それには一般的に言って3種類あって　拘束の全くない　Scholarship　週に一定時間(15時間くらい)指導教授の実験助手をする　Fellowship　そしてやはり一定時間講義の助手を義務づけられる　Assistantship　とがある．　最後のものはすでにその講義を優秀な成績でとった者で英語が国語の国からの人という制約がつくので　われわれにはまず適用されない．　Scholarship　がもらえれば最高だが州民の税金でまかなわれている州立大学では額がごくわずかで　むずかしいようだ．　しかしこんなことを心配するより　まず行きたい所へ手紙を出してみることだ．私の場合は東京のアメリカ文化センター（港区　芝公園女子会館　電話 431-2205）で要覧を調べ　日本人学生が少なく　field　に近い所としてコロラド鉱山大学とユタ州立大学　そして専門であったウラン鉱床の研究に積極的だったコロンビア大学に手紙を出した．　外国人用奨学金はないからとのことわり状のきたユタ州立大学を除き　送られてきた入学申込書と奨学金申込書にその他の必要書類をつけて正式に申込んだわけである．

その必要書類とは大学4年間の成績　英文の3名の推薦書　学会誌に発表した論文があれば　その別刷および英語の能力証明書である．　これはどこのでもよい場合と　指定の所（アメリカ大使館とか　基地の高校である成増高校など）のものがいる場合とがある．　この他　Educational Testing Service　の能力試験（Aptitude Test）が　専門別試験（Advanced Test）　あるいはその双方が大学によって必要な場合がある．　それらの申込みは　ロスアンゼルス（Educational Testing Service: Los Angeles 27, California, U.S.A.）へ　また　試験は年に4回東京の成増高校で行なわれている．　前者はかつての進学適性検査のようなもので　内容はやさしいのだが問題の数が多いのと語彙の点で文科系の問題は骨である．　解答法は5つの答のどれかの枠を鉛筆で塗りつぶす方法で　時間切れで残った問題を盲目的に埋める方法はきかない．　理科系のものは数式や図が入るのでまだ楽だ．しかしながら　この試験の成績が悪くても日本の教育水準の高さから　入学はまず許可されるようだ．

専門別試験では日本の大学で習うことよりやや上の程度の問題まで出る．　現役の人はともかくとして　卒業後何年かたっている人は　自分の専門外のことを復習される必要があるだろう．　また一般論として　アメリカの一般地質—地層名とか有名な化石　岩石　鉱床などの

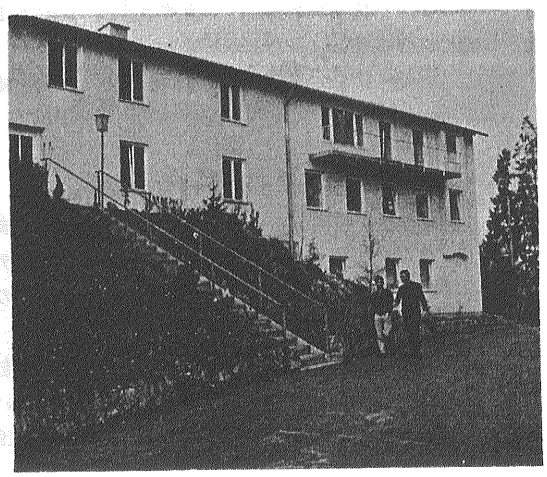
⑪—A　6月から9月中旬までの3カ月は夏休み　地質の学生の多くは学資かせぎに西部の鉱山に出かけてゆく　仕事休みにはこわれた丸木小屋にかつての黄金時代に夢みた人たちをしのびながらふざけ合う

⑪—B　在米中2回の夏休みを　私はニューメキシコの山の中で地質図を作り地化学探鉱をして働いた　インド人とカナダ人をまじえて国際色豊かな私たちの仲間

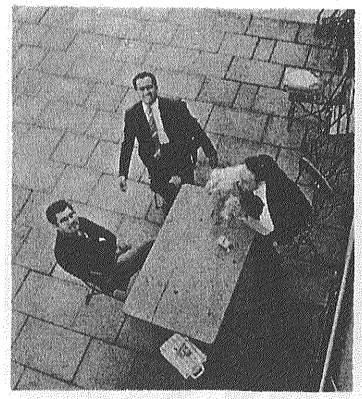
⑫　フランスのグラノーブルは次期の冬期オリンピック会場として脚光を浴びてきた　フランスアルプスに近い静かな町だ　大学は旧市街（手前のごちゃごちゃした所）の外側や丘の上にあり近代的な建物である　構造地質と山と雲の好きな人には　絶好の場所といえるかもしれない　夏期3カ月のフランス語の授業にも定評がある

⑬　グラノーブルでは　アルプス構造と山の好きな藤原さん（右から2人目）に会った　高校時代から10年計画でこつこつ貯金して独力でこられたと聞いた　アルプスのふところを突走り　シャモニーやラ・メージュに1日で行けるとは何としあわせなことだろう
（ラ・メージュ山ろくにて）

⑭　ドイツ語を学ぼうと思った人は Goethe-Institut の名を聞いたことがあるに違いない　世界各国にあり　日本にも2カ所にある　本場のドイツでは18カ所　おもに南ドイツに設置されている　エベルスベルグのものはベートーベンの田園を思わせる南ドイツに　小さな湖に面して建てられていた（矢印が学校）



⑮　ここの学校は寮付きで鉄筋3階建てとこじんまりしており　世界各国からの学生が集まっている　写真の2人はアラブ連合からの学生　4月の南ドイツは春にはまだほど遠く庭に花はまだみられない



⑯ ジャガイモの多い食事に "Immer kertoffeln" と悪口を言いながらも暖かい日にはベランダでミュンヘンビールを楽しむ

⑰ 2カ月単位の学期が最終試験を迎えるようになると 無銭旅行の準備をする人 大学に入る準備をする人などで学校はにぎやかになる

場所—を知っておくとよいと思う. 合格者の最低線は大学により変わる. コロンビア大学では820満点中の600点 全受験者の86% いいかえると成績のよい方から14%のうちに入っていなければならない. しかし奨学金をもらうために受ける必要はなく 9月の学期初めに受ける. コーネル大学は奨学金の審査前に受けないといけないそうである. コロラド鉱山大学は独自に9月の学期前に行なうが これは奨学金にも degree にも関係しない.

さて 以上の必要書類を毎年2月1日までに送ると 4月1日に結果の発表がある. 合格した場合は 4月15日までに一校だけ選び 奨学金を受けとる旨 返事をする. 奨学金が全額もらえない場合でも 実験助手としての時間当り2～3ドルの仕事が得られるので 経済的な心配はないと思う. 全額もらえると たとえばコロラド鉱山大学の Fellowship で税込み月170ドル(月払い)に授業料700ドル(それぞれの学期初め払い) コロンビア大学の Scholarship は税なし2学期分で3000ドル(学期初めに2回払い 1500ドルの授業料はこの中から年間で払う)だった. 換言すると これが1学年間の必要経費ということである.

このようにして渡米が本決りになると 旅費支給の奨学金の試験のために英会語を中心に勉強をする.

語学力をつける方法

英語会話を勉強するには ラジオ レコード またはアメリカ文化センターの Ameriphon English のテープを使用するなどの独習ほか 英会話の学校に入るのがよく 後者では日米会話学院 (新宿区 四谷 1-21 Tel 351-6171 国電四谷駅で降りて北側 徒歩3分)をすすめる. それは入学試験や落第があるなどきびしいことフルブライト委員会の旅費支給の奨学金の試験が1964年までにここに委託されていたこと および渡米して9月の学期初め前の Emplacement Test がここの試験にそっくりである点の3つの理由からである. 他国のことばで新しいことを勉強するわけだから 渡米前の1年間はここで会話だけに没頭するくらいの心算りで力をつけて欲しいと思う.

日米会話学院は昼間部(9 00—14 30)と夜間部(18.00—21.00)とに分かれている週5日制の学校で 新学期は4月と10月で1年半で卒業する. しかし1月と7月に編入できる. 卒業しなくても ここで2/3を終えた程度の実力があれば渡米してもじゅうぶんである. 入学または編入の試験は高校程度の知識のいる筆記試験と テープから流れてくる質問に答える口頭試験に分かれている. 次に筆記試験の例を少しあげてみよう.

正しいものを右の3つの答から選ぶ.

Almost___the students came.	none, all, of
The man___I visited was a musician.	which, to, to whom
These ___ ones are too big.	several, few, red
___of the students are good.	much, many, any.

入学および編入試験の現在の競争率は 昼間部で約2倍 夜間部で約3.5倍程度だという. 次回は3月21日に夜間部に 22日に昼間部に入る人の試験がある.

フランス語 ドイツ語およびロシア語については 東京に日仏学院(東京都新宿区市ケ谷船河原15 電360—7224)ゲーテ学校(千代田区飯田町2—11 電261—6952) そして日ソ学院(渋谷区千駄ケ谷3—11 電402—1409) があり フランスとドイツでの語学の学校を探しておられる人は下記で詳しい情報が得られる.

Office national des Universités et Ecoles françaises: 96 boulevard Raspail, Paris-6e, France

Goethe-Institut, Abt. Unterrichtsstätten: München 2, Lenbachplatz 3/I, Deutschland.

費用はアメリカより少し安く 授業料を含めて月に約5万円で生活できる.

留学についてある提案

外国と聞くと 私のような戦後派にはずいぶん遠くに感じられる. 卒論は中国大陸だったと年配の人に言われるとうらやましく思う. 日本から見えるソ連や韓国中国などへ行くのが 西欧の国々へよりむずかしい現在の政治情勢は 解決できないものだろうか.

ことばと地域性ということはよく語られる. 民族の移動に関係したフィンランド語とハンガリー語の類似性

のような例を除けば　隣国間の言語は共通点を持つことが多いまた欧州では　ユーゴの北部ではドイツ語が　通じ　フランスのイタリア寄りでイタリア語が　ドイツよりでドイツ語が通ずるように　ことばと地域との結びつきがよく理解できる．　もしアメリカで中国人や韓国の学生たちに日本人学生が会うと　ほとんどの場合は英語で話すようになることだろう．　日本人に対する外国語は　いまや　第２次世界大戦以前の中国語や朝鮮語でなくて遣隋使や遣唐使の頃の中国語の位置を占めている．だが対象が西欧とアメリカに　文化の中心が動くにつれて変ってきている．　ことばの伝播の第１次的要因である地域性は　政治　社会および文化などの第２次的要因によって置きかえられようとしている．　この傾向は交通と通信機関の発達によって　今後ともますます強められて行くことであろう．　これが現状の日本で　その外国に行くには個人のふところが余りにさみしい．　しかし外国との人の交流が少なく〝風通しの悪い〟日本の風通しをよくし　島国根性をなくし　国際的視野に立つために　一人でも多く日本を出て欲しいと願う．　その場合の理想的な留学の時期について　これからの若い人たちに次のことを提案してみたい．

まず高校卒業と同時に　大学に入学の決まった人は４月から５カ月の予定で欧州の旅に出て欲しい．　このためには大学の入学期を９月に変えねばならない．　欧米の大学で勉強する人のためにも入学期を調整して欲しいし長い夏休みが第１学期中に入ることは　休みの意味が半減するし　何としても　４月始まりには不賛成である．

東京外国語大学の串田孫一教授などは　長年にわたる変更論者なのだが　文部省は実行しそうにもない．　ヨーロッパではユースホステルを利用して各国を旅行しながら　各国からのホステラーたちと話し合う．　これがユースホステルの意味のあるところで　単なる安宿的な考え方や　日本で　ある政党に利用されているようなあり方は　創立者シルマン氏の願ったことでもないし　間違っている．　そして旅行の最後にイギリスに渡り　どこかの家庭に身を寄せ　家事を手伝いながら　英会語を磨いてくる．

ヨーロッパのユースホステルは各所にあり　安く　たとえばドイツでは　一泊が90～120ペニッヒ（80～110円）である．　交通費は横浜から船　汽車および飛行機を使うシベリヤ経由でヨーロッパに行けば　パリまで一週間かかって片道10万円弱だし　もし希望者が増え　飛行機を団体で借りきれば　もっと速く安く行けることだろう．

もし本当に行く気があり　中学入学の時から準備すれば　日本の中流家庭の人にも無理な注文ではないと思う．

この時期にアメリカ旅行をすすめないのは　歴史に浅い conforminism の国からは　欧州に比べて　学ぶことの種類は少ないし　深さも足りないと思うからである．

また豊かな物質生活に入ることはやさしいが　それから元にもどることは非常にむずかしいと考えるからでもある．２回目は日本の大学を卒業後すぐに　アメリカかヨーロッパの大学で自分の専門を進めて欲しい．　習うことの多くなった今日では　修士までは４年過程の大学の延長のようになっている．　最低２カ年は外国で勉強していただきたい．　経済的なことは奨学金にたよる．

日本人は個人としては世界的に優秀だと思うので　普通の大学でまじめに勉強した人であれば　どこかの奨学金は必ずもらえると信じている．

第３回目は30～40才の間で　就職した後の仕事について会社や政府など　日本側の奨学金で勉強してくる．期間は10カ月ないしは１年でよいと思う．

そして最後は50才前後に管理職としての　短期間の視察旅行である．　これは３カ月程度でよいであろう．

外国にいて　いつも考えていたことは日本の方向づけのことであった．　優秀である日本人が　世界のどの先進国よりもよく働いているのに　どうしてもっと住みよくならないのだろうか．　結局個々のエネルギーがある方向に集約されていないからであろう．　蛇の歩むに似て　私たちはずいぶん無駄な歩き方をしている．　そして時には変な方向づけをされて　大東亜戦争と言う苦い経験をしてきた．　この問題は根本的には日本の宗教と日本人の思想というものにつながると思う．　一国の首相が国造り　人作りをさけばねばならぬ日本である．簡単に解決できる問題ではあるまいが　何とか解決しなければならない　大きな日本人全体への課題である．そのためには　岡目八目　日本の外に立って　とくに若い人たちに日本をみつめていただきたいと思う．　そして皆で考えよう．　この文中で詳細を省いた面もある．具体的な質問などあれば喜んでお答えしたいと思っている．（筆者は鉱床部）

⑱　オランダの小さないなか町のホステルで会った少女たちは自転車で各国をまわっていた　英語もドイツ語もきれいで　きくと　学校で習っただけだという　日本人にあったことを非常によろこび次々に質問を浴びせてきた